

令和5年度 第4回 小牧市母子保健推進協議会 議事録

| | |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日 時 | 令和6年2月16日(金) 13時30分～14時30分 |
| 場 所 | 小牧市保健センター 2階 大会議室 |
| 出席者 | <p>【委員】(名簿順)</p> <p>林 芳樹 小牧市医師会小児科医 三輪 茂美 小牧市医師会産婦人科医 鈴木 久代 小牧市学校教育課指導主事 山崎 和子 小牧市北里中学校養護教諭 藤原 美里 愛知県立小牧高等学校(定時制)養護教諭 森島 厚子 小牧市幼児・教育保育課指導保育士 余語 美紀 小牧市子育て世代包括支援センター副所長 川崎 由美子 小牧市子育て世代包括支援センター家庭児童相談員 上園 幸子 臨床心理士 井上 静 主任児童委員 後藤 春香 小牧市民病院助産師</p> <p>【事務局】</p> <p>野口 弘美 保健センター所長 西村 泰洋 保健センター所長補佐 三枝 尚子 保健センター母子保健係長 長谷川 真弓 保健センター母子保健係保健師 安立 麻希子 保健センター母子保健係保健師 早瀬 未紗 保健センター母子保健係保健師</p> |
| 欠席者 | <p>竹内 友康 小牧市歯科医師会小児歯科医師 小川 喜世子 小牧市こども政策課長 戸田 輝子 春日井保健所健康支援課長</p> |
| 傍聴者 | 0名 |
| 配付資料 | <p>資料 1-1・2・3 資料 2 資料 3</p> |

1. 開会

2. 協議事項

(1) 生と性のカリキュラム「性に関するアンケート」について

- ・事務局より、資料1-1・2・3を用いて説明。
- ・質疑、主な意見は以下のとおり。

鈴木委員) 項目については見やすく、回答忘れもないかと思う。「Q5 相談する相手」について、父、母、祖父母、兄弟がいない子もいる。いるのに相談しないのか、いないから相談しないのかは違うと思う。相談する相手を特定するためのアンケートということではよいか。

事務局) 生徒により家族背景は様々だが、この質問では、「身近な誰に相談しているか」「信頼できる相談者に相談できているか」をみていきたい。生徒が「相談者や相談先に相談できているのか」、また「相談者がいない」という点もポイントにみてきたい。

山崎委員) 「Q8-1」のインターネット機器の使用について、「Q8-1-4LINE」とあるが、LINEは通話やメッセージ、動画送信、様々なことができるが、この一問でよいか。

「インターネットにつながる機器」にゲーム機が入っていないが、ゲーム機もインターネットにつながるよいか。

インターネット機器で漫画や小説を読む子もいる。また買い物をする子もいるかもしれない。そのあたりは「その他」という問を作るか。

事務局) LINEで出来ることは、全てLINEの項目にまとめて問うこととする。その他、頂いた意見を元に、アンケートフォームの見直しを検討していく。

3. 情報提供

(1) 5歳児健康診査について

- ・事務局より、資料2を用いて説明。
- ・質疑、主な意見は以下のとおり。

上園委員) 年中児の年に行くことは、良いと思う。小学校入学後に、親は家では困っていないのに、実は園では困っていたケースがよくある。入学後、先生の関りが変わっていく中で、行動や言動が気になる子がでてきて、そこで子の様子を話し、母は傷つくことがある。健診だと、母子、父子で来所することが多く、集団行動の関りが見えにくくなる可能性も考えられる。そのため、保育園、幼稚園から情報を得て、総合的にみていく5歳児健診を実施したほうがよい。

会長) 健診実施にあたり、母子手帳の情報だけではなく、園での情報も把握して実施していくとよい。5歳児健診では、埋もれていた発達障害をみていく。1歳6か月児健診、3歳児健診、新しく5歳児健診を実施するには、そういう発達障害をみていく必要がある。発達障害児が増加している現状。少しでも早く支援の介入をして、そのような子たちが健やかな成長が出来ることよい。集団活動が加わったところをみるのは、新しい試み。

森島委員) 1歳6か月児健診、3歳児健診とは異なる健診の見方。言語も項目に入り、重要かと思うが、5歳という発達の特徴を捉えて、人への関り、興味、社会性の中で集団活動をする項目を重視して頂きたい。園と連携を図って健診を活かしていくことが課題。

事務局) 学校教育現場に質問。小学校入学をして小1プロブレムとも言われるが、5歳児健診については精神発達もあるが、幼年期に社会経験のない未就園のまま就学する子もいる。そのような子がいることを踏まえ、そのような子も受診勧奨しつつ把握し就学に

向けて準備をしていきたい。健診実施にあたり、学校教育側より要望はあるか。

鈴木委員)入学前に就学時健診を行うが、短い時間。そのため、子どものことを全て捉えられるわけではない。在籍している園に就学担当者が出向いて様子を見せてもらい、気になる子がいれば園の先生に話を聞き、就学に向けて取り組んでいる。

森島委員)保育園に就園をしている子は園と連携がとりやすいと思う。就園していても通えていない子、年長、入学前でも、一定数そういう子もいる。そういう子の現状をどうやって把握するのも課題。それをふまえた上で、保健センター、幼児・教育保育課、学校と連携がとれるとよい。

上園委員)小牧市は外国籍の子も多い。親が母国語を覚えさせたいという思いが強く、小学校入学後に日本語が出来なくて、その子自身が困ることが、学校現場でみられる。子どもが1年生前半で辛くなることが多いので、5歳児健診で外国籍の子は、小学校入学前に日本語がどれくらいできていると良いと伝えたい。口頭では伝わりにくいため、入学前までに必要なレベルの日本語を紙面で伝えるとよい。

会長)県内でも2市町村で実施していると事務局から聞いている。市の規模が違うため比較はできないが、小児科医といっても専門性が限られている。発達障害に習熟した医師になってくると、小児科でも児童精神の先生。そう考えると、小牧市では難しい面もある。3歳健診まで医師が参加するのは違い、5歳児健診は専門性があるため難しい。

川崎委員)言語の問題があったが、ベトナム人が増加。年間出生が100人程。ポケットクでも対話困難。この先、ベトナム人が出生の1割になるのではないかとされている。スペイン、ポルトガルとは、ベトナムでは文化が異なる。日本で出産し国に帰り、また日本に戻ってくる人が多い。日本語もわからない、文化も違う、4歳5歳で日本にくると、その後どうしていけばいいのかと思う。

会長)言語の問題で、通訳の必要性もある。

森島委員)受診者が、どの程度来るのか。5歳というと、発達、発育も周囲から見て危機感があっても、集団生活に参加していることで、「そこまでではない」と思っている保護者も多い。危機感をもってほしい親こそ、危機感をもてない。5歳児健診に足が向くのかなと思う。みんなが健診を受ける機会を与えられると良いため、来てもらえる工夫、親子にとって来ようと思うメリットがないと、低年齢に比べて受診の課題がある。

会長)1歳6か月児健診、3歳児健診、受診率は減少していますか。

事務局)90%は超えているが、ここ数年は減少傾向。

事務局)5歳児健診を実施するとなると、就園先からの情報、学校への引継ぎ、発達に支援が必要な子がいたとしても、次の支援先を整備したうえで実施していかないといけない。関係機関と連携し、実施に向けて進めていきたい。

会長)健診はいつ始めるのか

事務局)整備が整いしだい、検討していく。

(2) 生と性のカリキュラム「親子で学ぶ性教育【幼児編】講座」動画公開について

- ・事務局より、資料3を用いて説明。
- ・質疑、主な意見は以下のとおり。

川崎委員)講座を見学していたが、実物の人形を使って胎児の大きさを見て、こどもたちも「へーこんなに小さいの」と言っていた。だんだん赤ちゃんが大きくなって生まれてくるところも良かった。実際に、手に触れたり、実物が見れるのは子どもたちにも、親にも自分の出産を振り返り、良いことだと思った。

山崎委員)動画として、何分かチラシに記載してあると見てみようと思う。動画の時間が

どれくらいか、また目次があると興味のあるところから見てもらえるため、より見てもらえると思う。

4. 閉会